声なき感染症を知る ◆18◆

秋から冬に流行する感染症

風邪によく似た症状

手洗い、うがい大切

県感染症情報センター

夏は手足口病、冬はインフルエンザなど感染症には「注意すべき季節」があります。今回は、秋から冬にかけて流行する感染症で、「かぜに似た症状」ゆえに単に「かぜ」と勘違いをする、RSウイルス感染症とマイコプラズマ肺炎についてお話します。

▽流行期が早まっているRSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルスが原因の呼吸器感染症です。生後2歳までに、ほぼ全ての子どもが感染すると言われていますが、一度かかっても抗体ができにくく、大人になっても何度も感染を繰り返します。

咳（せき）、鼻水、発熱など、いわゆるかぜの症状で始まり、通常でしたら1週間程度でおさまりますが、気を付けたいのは、乳幼児の細気管支炎や肺炎へ重症化することが高いことです。「ゼイゼイ・ヒューヒュー」といった呼吸音に気付いたときは、すぐに医師の診察を受けて適切な治療を受けることが必要です。

感染症発生動向調査によると、これまで晩秋から春先にかけて毎年流行を繰り返してきましたが、平成23年以降は、流行が始まるのが1カ月から2カ月ほど早く、流行期間も長期化しており、結果的に感染者数が増加しています。

奈良県も同じような傾向で、8月末ごろから中部地域で患者の報告が増加しています。ご注意ください。

▽咳が続いたら注意のマイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、集団で流行を起こすことが特徴で、幼稚園や小学校、家族間で小流行するのが特徴です。かつては4年周期でオリンピック開催年に大きな流行を繰り返してきたため、「オリンピック病」と呼ばれていたころもありました。最近はそのような周期性はなくなり、冬場に患者数が増える傾向にあります。

原因のマイコプラズマは、細菌に寄生する生物で、飛沫（ひまつ）や接触によって感染すると言われています。潜伏期間は1～3週間と長く、発熱、咳、鼻水などのかぜ症状が現れます。

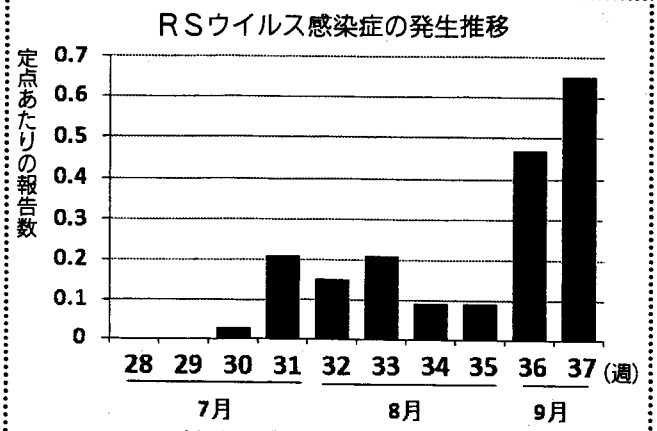
特に咳は、乾いた咳から痰（たん）の絡んだ咳となり、熱が下がっても、咳だけは2週間程度続きます。乳児から学童児が中心ですが、大人もかかる病気です。特に、咳が長く続くようであれば、医療機関を受診することをお勧めします。

▽予防策

今回紹介した感染症は、いずれも呼吸器感染症です。感染者の咳や、くしゃみのしぶきを浴びたり、痰やつば（唾液）、鼻水、くしゃみが付着した手指や品物などを介して、病原体が口から侵入し、発症します。

病気を正しく理解し、「かからない、うつさない」ため、手洗い、うがい、マスクの着用などを心掛けましょう。（県感染症情報センター）

＝第2木曜日掲載＝



（奈良県感染症発生動向調査資料から作成）
2015年9月24日現在値